



阿蘇市在住。
絵や講演で活躍中。

絵・文 あべまりあ

「自然と共に遊び生活した子どもの頃の体験は宝物だ。心身を強くし、感性を豊かにする。阿蘇の大自然を守るためにも次代を担う若い人や子どもたちにもぜひ伝えたい!」と願い、あべさんが描かれた作品をお届けします。

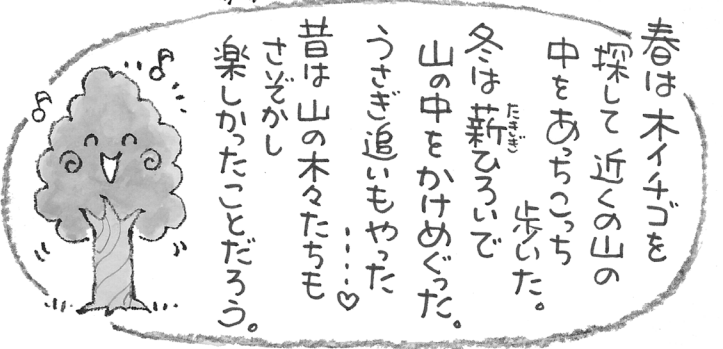
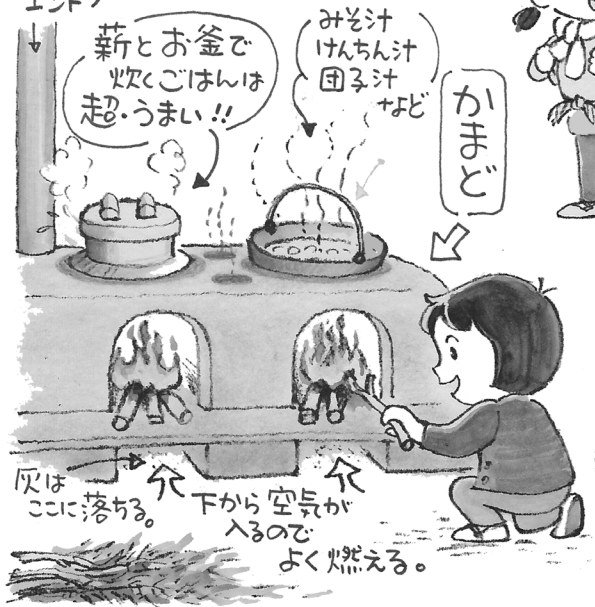
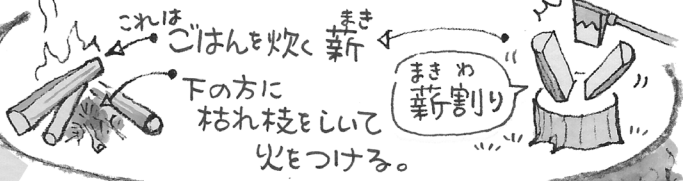
薪たきぎひろい



まだがスコンロも
電気炊飯器も
無かったあの頃
冬になると
私たちは近くの山々に
薪たきぎひろいに出かけた。
山風とかで落ちて枯れた
小枝をひろい集めて
背中にしよって
「二宮金次郎みただね」
などと叫びながら
家を持って帰って
そこでごはんを炊いたり、
風呂を沸かしたり
したのだった。



★山でひろい集めた枯れ枝は、すぐ火がつくので
かまどに風呂の焚きつけに使用した。



図書館まつりにご参加ありがとうございました！

第 9回図書館まつりを11月2日に農村環境改善センターで開催しました。ことしも開会行事として読書感想文コンクールの表彰式を行い、優秀作15作品が表彰を受けました。

また、図書館制作の紙芝居『鬼八』の完成披露会やおはなしボランティアアップルによるおはなし会、毎年恒例の古本リサイクル市のほかスタンブ作りやしおり作りなどの体験コーナーやふろく抽選会などさまざまな催しを行い、会場ごとに盛り上がりました。

また、阿蘇の新米つかみどりや綿菓子、ヨー

ヨーのプレゼントなどもあり、会場にはこどもたちの満面の笑みが広がっていました。

図書館まつりは、小さな子どもからお年寄りまでが楽しむことができるおまつりです。

ことし参加できなかった方は、ぜひ来年の図書館まつりにご参加ください。



古本リサイクル市のような様子

読書感想文コンクール、入賞作品15点を表彰

表彰式の様子



第 9回阿蘇市読書感想文コンクールの表彰式が11月2日行われ、ことしも多くの優れた作品が寄せられ、厳選な審査の結果、全応募作74点の中から15点が入賞。受賞者に、賞状、盾、副賞が贈られました。

市長賞を受賞された3名の作品は、広報あそ2月号にて全文を掲載させていただきます。入賞者は以下の方々です。

平成25年度 阿蘇市読書感想文コンクール審査結果

賞	氏名 (学校名)	作品名
阿蘇市長賞	泊 優太 阿蘇小6年	農業を使用しない農業のすばらしさ
	菊池 真菜 阿蘇中3年	「貧困の光景」を読んで
	益田 久己 跡ヶ瀬 (社会人)	「永遠の0」を読んで
阿蘇市教育長賞	吉岡 もも 内牧小1年	きみがおしえてくれた
	森 あいか 阿蘇小2年	「ネーネ」を読んで
	ごとうきらり 尾ヶ石東部小3年	「いのちのまつり」を読んで
	高橋 悠華 尾ヶ石東部小4年	「あなたの声がききたい」を読んで
	井野 はる香 内牧小5年	「マルコ・ポーロ」を読んで
	園田 桃子 宮地小6年	「はるかなるアフガニスタン」を読んで
	鶴田 結乃 一の宮中1年	みんなが平等に楽しく
	鶴本 歩美 阿蘇中2年	ゼロ！を読んで
	宇都宮 里緒 阿蘇中3年	夏の庭を読んで
図書館長賞	市原 慶拓 阿蘇中央高1年	「困り感」をつかむ
	寺川 あいか 宮地小3年	「山からきたかからかんだ」を読んで
	犬塚 ユミ 狩尾 (社会人)	「苦海浄土」で水俣病を学ぶ

(敬称略、氏名は応募申込記載のとおり)

移動図書館

日程

阿蘇地区 東コース

12月10日(日)・1月22日(日)

- 山田公民館 13:35 ~ 13:50
- 下の原公民館 14:00 ~ 14:15
- 西役犬原公民館 14:25 ~ 14:40
- 竹原公民館 14:50 ~ 15:10
- 猿渡製材所前 15:20 ~ 15:35
- 坊中公民館 15:40 ~ 16:00
- 佐伯商会前 16:10 ~ 16:25

阿蘇地区 西コース

12月17日(日)・1月21日(日)

- 枳天満宮 14:20 ~ 14:40
- 赤水駅前 14:50 ~ 15:10
- 宮本酒店前 15:20 ~ 15:40
- 上の小屋前バス停 15:50 ~ 16:10

一の宮地区

12月19日(日)・1月23日(日)

- 波野保健福祉センター 10:40 ~ 11:10
- 坂梨公民館 13:30 ~ 13:50
- 古城公民館 14:00 ~ 14:20

※冬季は、天候や道路状況により巡回を中止することもありますのでご了承ください。

おはなしアップルのクリスマス会

●とき 12月14日(日) 午後2時~

●ところ 阿蘇図書館研修室

小さなお子様から小学生まで子どもも大人も大歓迎です。ぜひ、お越しください。

人権作文

自分自身をふりかえって

一宮中学校 2年 松田 元気

僕にはおじいちゃんがあります。お

じいちゃんは目が見えません。僕が小学校六年生の時、おじいちゃんは脳梗塞という病気になって、目が見えなくなっていました。おじいちゃんの家は、熊本市内にあります。二週間に一回のペースで、おじいちゃんに会いに行きます。行った時は、おじいちゃんは支えなければいけません。トイレに行きたい時や食事の時などは、手をもって、つれて行かなくてはなりません。そんな時は、大体お母さんがつれて行きます。僕はそんな時、お母さんに言うことぐらいいいかできません。お母さんを手伝いたいな、とは思ってしまつのと、自分にできるかなと心配からです。

以前、一回だけおじいちゃんの手をもってトイレにつれて行くこととしたことがあります。しかし、少し場所がずれてお母さんが手伝ってくれました。僕はどつしよつ、と思つてそれ以上できませんでした。僕はいつもそつです。失敗するのが怖いんです。人に何か言われるんじゃないかと思つと怖いからです。いつも心では思つていても、行動に踏み出せなかつた自分だめだな、と思つて

いました。

僕は、中学校一年生の時、友だちから嫌がらせを受けていたことがありました。その時は先生に言つて、少しは減つたけれど、少し続いていました。二年生になつてから、また嫌がらせをされたりすることが多くなつてきました。僕は先生に言つと、

「自分でやめると言うことも大切よ。まずは、やめて、て言つことよ。やめて、て言えたら、先生に言つて。」

と、言いました。僕は言おつと思いましたが、言つたらどうなるのかと思つて言えませんでした。何週間かたつた時、また嫌がらせがありました。僕は勇気をふりしぼつて言いました。言えたので、先生に言つと、

「言えだね。だったら呼んで一緒に話をしようか。先生も一緒に話すけん、元ちゃんも自分の気持ちをそこで伝えようね。」

と、言いました。それから何回か、その友だちと話をしました。話すと、その友だちの気持ちも知ることができました。話した後は、その嫌がらせはなくなりました。今もほとんどありません。たまに注意される時に、きつい言葉が混じつたりもし

ているけれど、その言葉も軽い気持ちで聞き流せるので気持ちが楽になりました。今は、前よりも楽しいです。

僕のクラスの人権スローガンは、『人をつくる心が帰れる場所』認め合うこと・伝え合うこと・あきらめないこと』です。このスローガンには、この二年二組が家のようになつとできる、安心できるようなクラスにしようという思いがこもっています。僕は、以前は安心して暮らせていませんでした。でも、今では安心できていると思います。僕は今まで、逃げていたと思います。人に何か言われるんじゃないか、と思つたらその人から離れていきました。

だから、安心できなかったのだと思います。でも、その人と向き合つて話してみても、少し自分が変わったかなと思つています。

でも、僕のほかに苦しんでいる人がいるということを、校内人権集会の一宮中学校人権アンケートの結果で知りました。こんなに多いんだな、と思いました。誰かに言えればいいのですが、困っている人は、そのことを言にくいのだと思います。もしかしたら、おじいちゃんもそうなのかもしれません。困つてい

る人の苦しみが、僕にはわかりません。僕は、気付いて動ける人になりたいです。時々、逃げてしまう自分もまだいるけれど、勇気をもって一歩を踏み出せる自分になりたいです。

まずは、僕にとって一番身近な存在のおじいちゃんと、もつと話したいと思つています。そして、今度おじいちゃんの家に行く時は、おじいちゃんを助けたいと思つています。

《先生からのコメント》

同情ではなく、おじいさんの姿に自分自身を重ねながら考えようとしています。「やめて」と言いなさい」と言つたときは、身を切られるような思いで元氣を送り出したことを思い出しました。「やめて」という言葉を伝えること、それを伝えるために自分自身と向き合い、それをあきらめず続けていくことの大切さを伝えていきます。差別と向き合い、なかまとながりが合いながら、一歩前に踏み出そうとする元氣さんの姿に力をもらいました。

家族や身近な人との関係を見つめ直し、人権や差別について話し合う機会を持ちましょう。